

**目標像** 空間・利活用を隔てている植栽を連続性のある明るい緑へ。

- ・樹木の管理方針を整理して見通しの良い樹林へと導き、各空間の連続性を高める。
- ・木陰での休憩やプレーパーク等、林内活動が出来る空間を確保する。
- ・塩性植物が生育できる基盤整備を行う。

**現況**

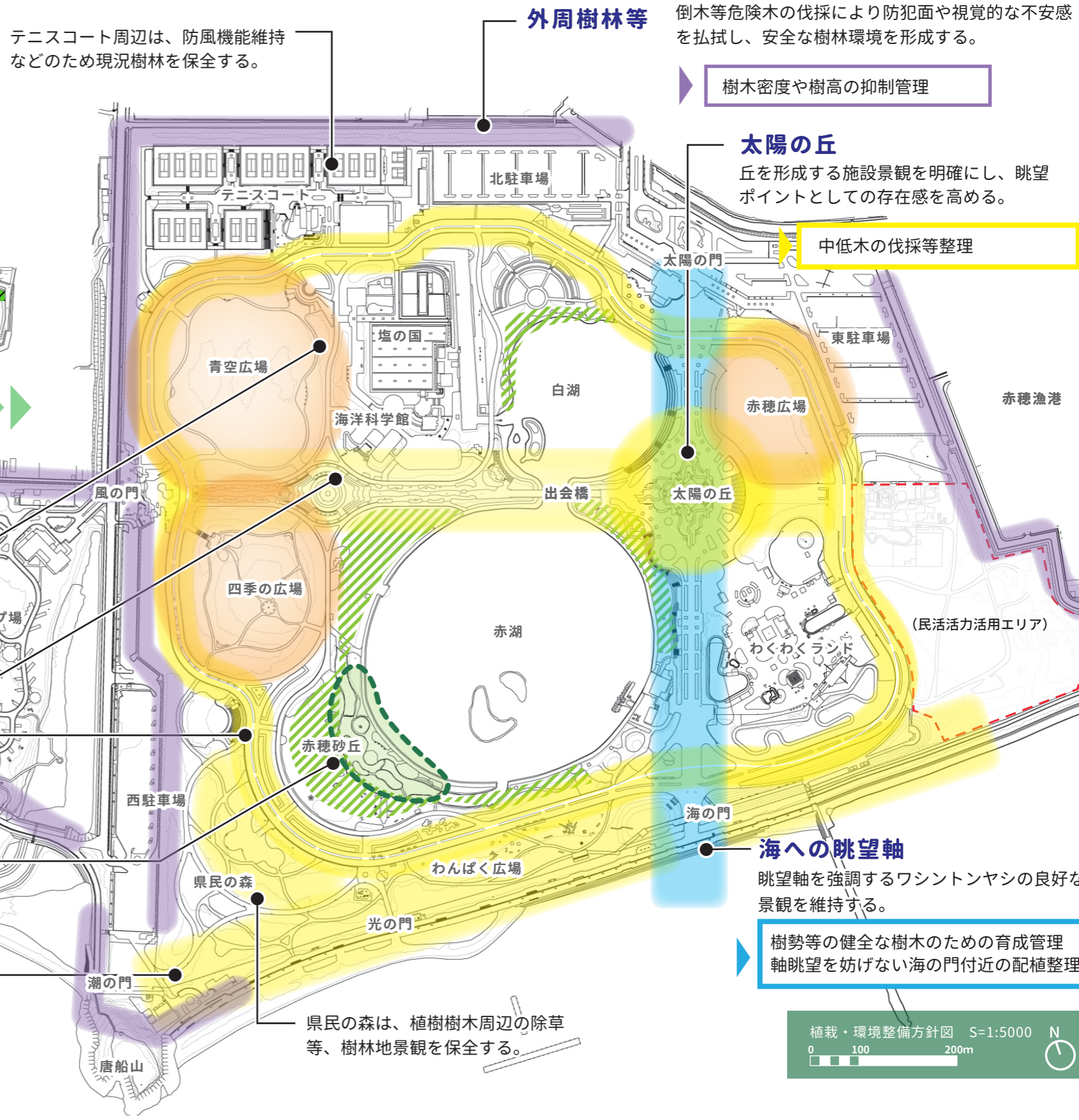
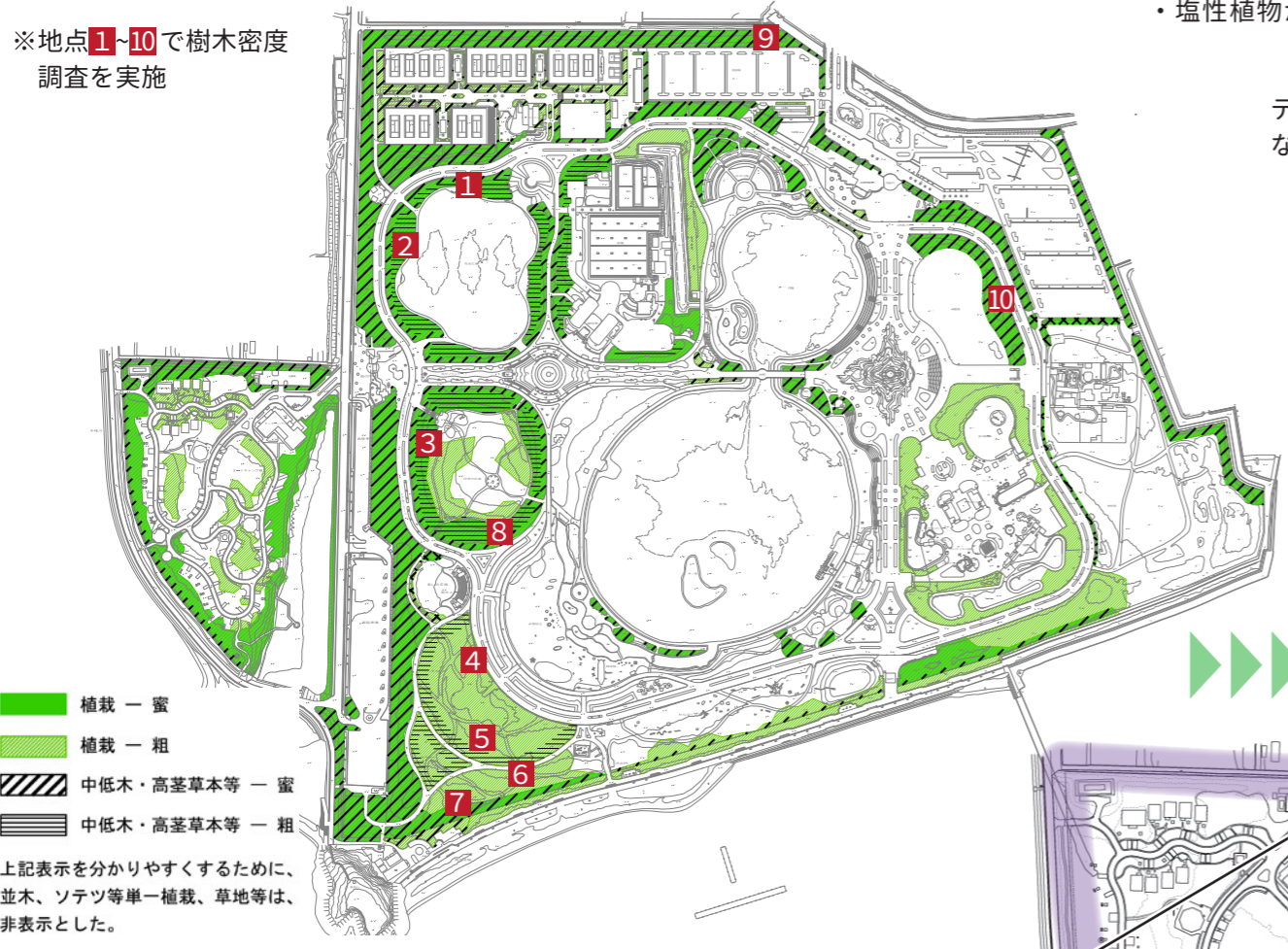
- ・高木密度が高く、うっそうとしている。
- ・中低木等による遮蔽感が強い。
- ・かつて存在した塩性植物が見られない。

**改善方針案**

- ・高木は場所毎の特性や現況に合わせて目標密度を設定する。
- ・林内を遮蔽する中低木類を撤去し、散策や休憩等のための空間を生み出す。
- ・林内の面的活用を可能にするため、高茎草本などの適切な管理を行う。
- ・塩性植物が生育できる基盤整備を行う。

■ ヤシ並木の強調	■ 生育基盤の形成
■ 林内を遮蔽する中低木の伐採	■ 危険木の伐採
■ 林内を遮蔽する高木・中低木の伐採	

※地点1~10で樹木密度調査を実施



- 広場空間** 木陰の休憩空間、防災機能に資する活動スペース空間となる開放的な樹林空間を形成する。
- 公園文化軸・ロードサイド空間** 隣接する多様な空間が资格的に連続し、園路のシークエンスとなる樹林構成への改善を図る。
- 湖の際** 伸びやかな芝生や砂浜による湖際の景観を維持する。赤湖の湿地環境では塩性植物の保全育成を図る。
- みどりの展望帯** 海への眺望を阻害しない樹林構成にし、海沿いのレクリエーション空間を形成する。



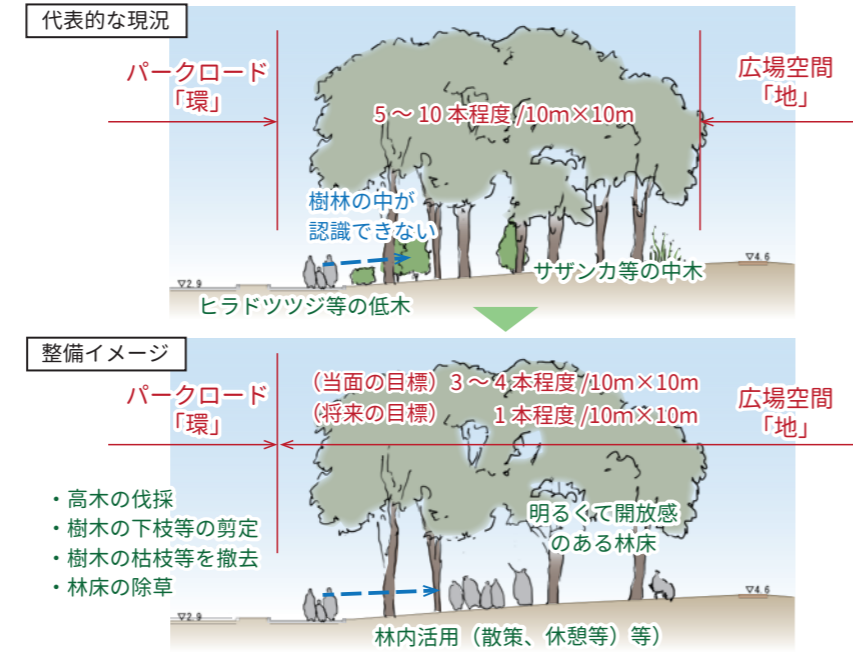
## 2 リノベーション実施計画 -2 (植栽環境の改善による魅力化)

現況調査の結果、中低木や高茎草本等による遮蔽感が空間を隔てている要因として大きく、これらは除去していく方針とする。

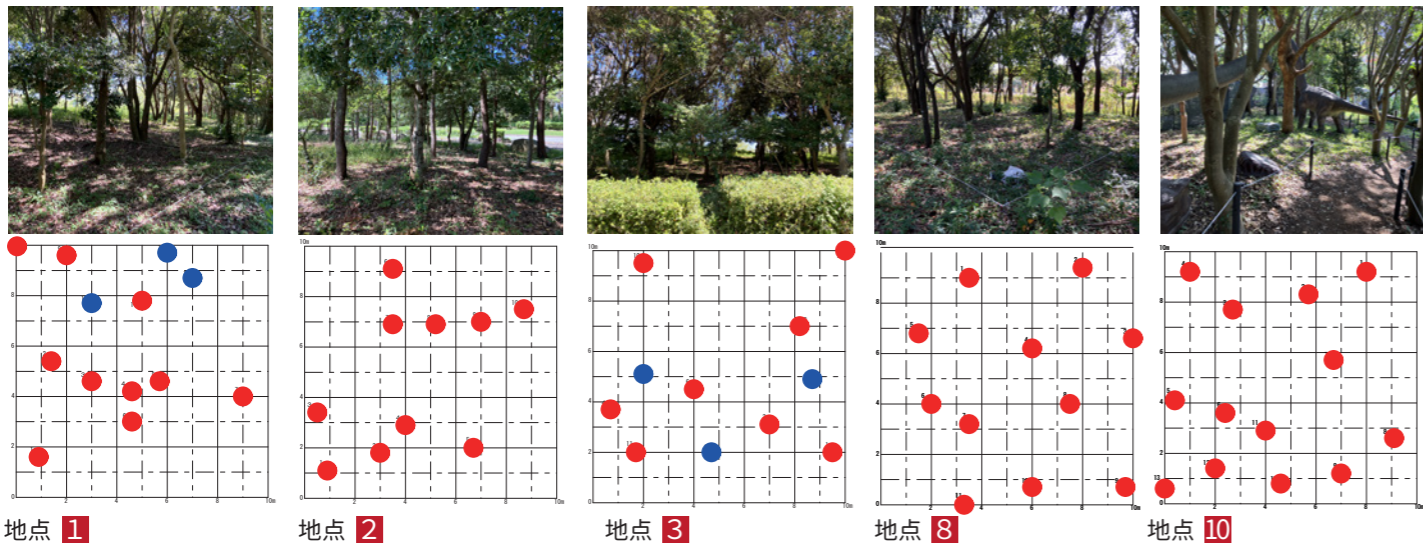
高木密度については、将来的な生育想定や林床の利活用の面から、場所毎に目標設定を行う。

青空広場、四季の広場、赤穂広場の周辺樹林については、当面は高木密度3~4本/100㎡程度、将来的には1本程度/100㎡とし、木陰の休憩空間、防災機能に資する活動スペース空間として活用できる、開放的な樹林空間を形成する。

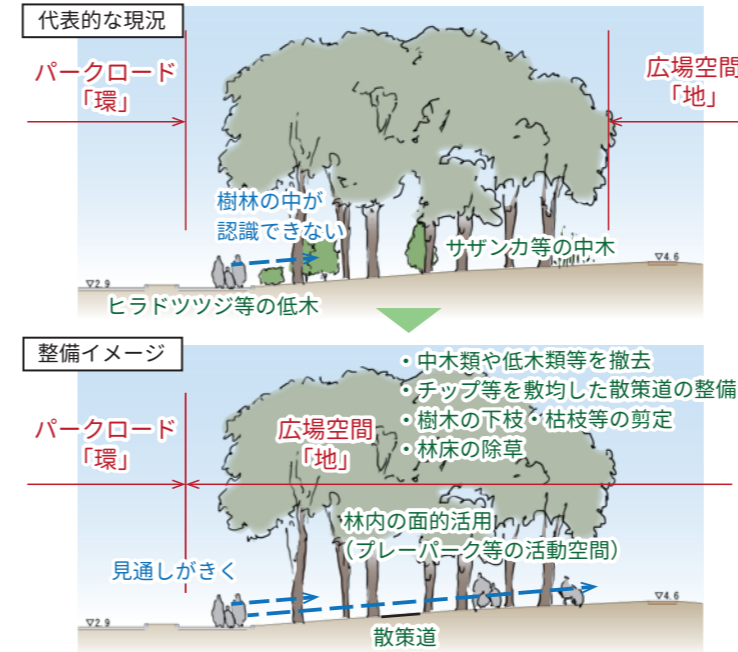
### 広場空間の樹林：高中低木の伐採等整理による利活用空間の拡大



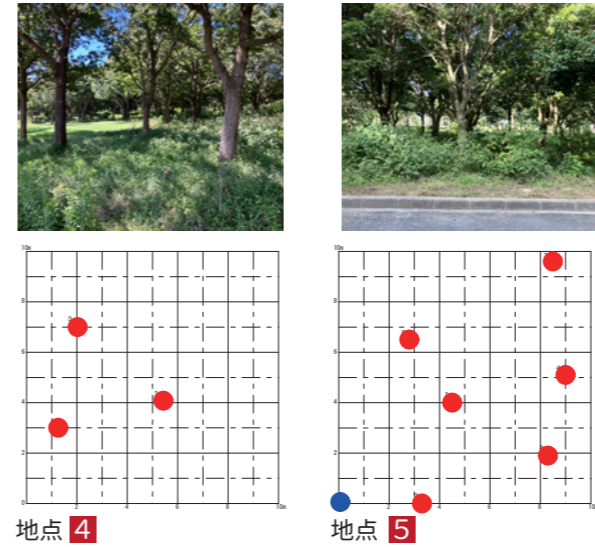
参考：該場所の現況樹木密度 (10m×10m 範囲) ●高木 ●中低木



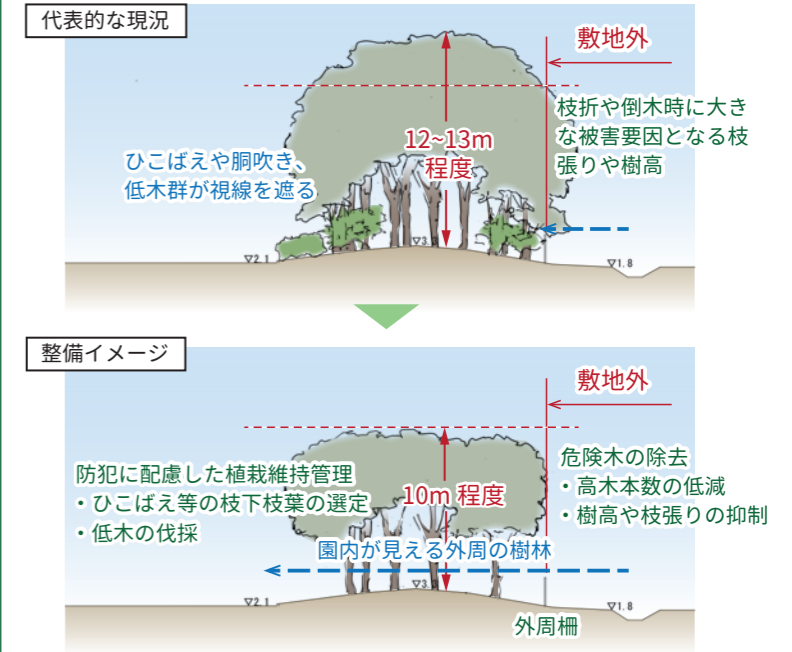
### 園路沿い樹林など：中低木の伐採等による一体感の創出



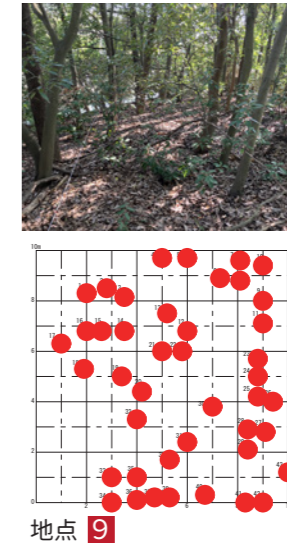
参考：該場所の現況樹木密度 (10m×10m 範囲) ●高木 ●中低木



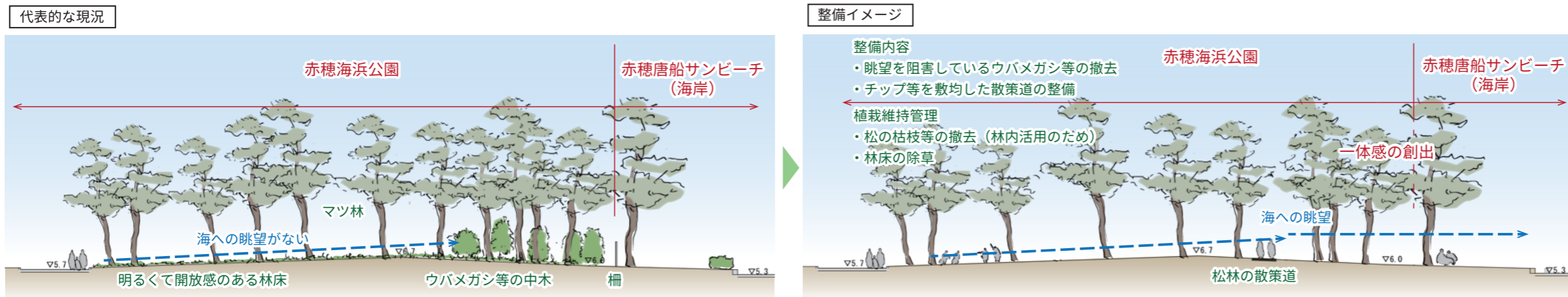
### 外周樹林など：危険木の伐採等による安全な環境形成



参考：該場所の現況樹木密度 (10m×10m 範囲) ●高木 ●中低木

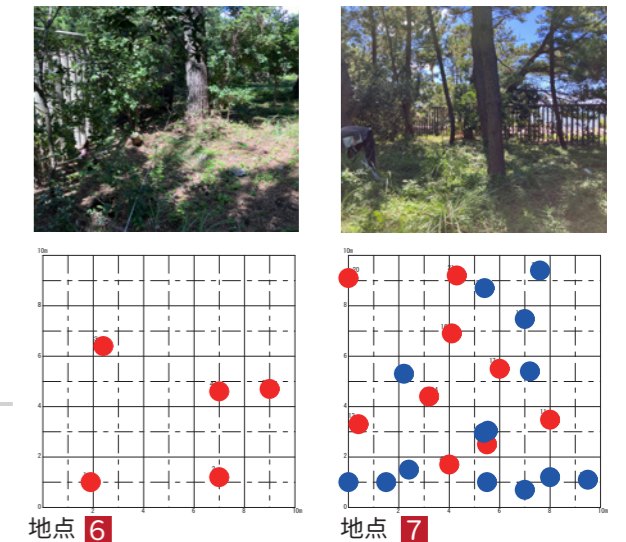


### 海沿いの樹林：中低木の伐採等整理による松林景観の形成



参考：該場所の現況樹木密度 (10m×10m 範囲)

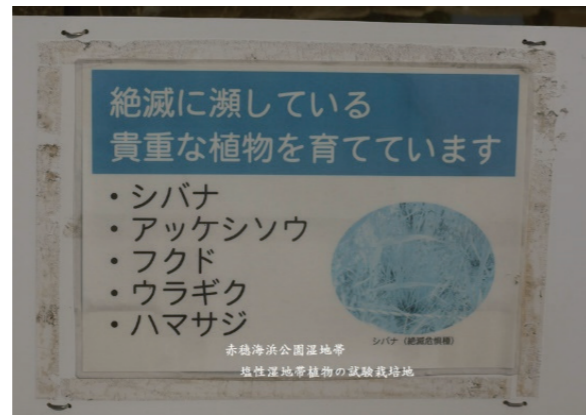
●高木 ●中低木



## 塩性植物保全・育成基盤

## 現況調査

公園内には過去、塩性植物であるアッケシソウ等を保全・育成する活動があったようであるが、現状ではアシ等の繁茂も多く、アッケシソウ等は確認できない状況にある。



(出典: <http://kaoru-egaosaku.cocolog-nifty.com/> より)

## 現況調査内容

- ・過去のアッケシソウの保全・育成箇所（赤湖から更に陸域に掘り込んだ水路）を対象に調査を行った。
- ・事前調査として過去の整備図面を閲覧したが、確認できたのは水路が付帯する赤湖の護岸構造のみであった。赤海の護岸構造も、碎石基礎の上に石（岩）を並べたものであり、コンクリート打設は行われていない。このことから想定すると、対象水路も赤湖と同様あるいはもっと簡易なものである可能性が高い。
- ・水路護岸においては捨て石の無い場所もあり、当該箇所の表層地盤状況を調査した。

## 調査結果

地表面から 20cm 程度で湧水が確認でき、更に 40cm 下程度までは護岸の石（岩）は確認されなかった。ただし、表層での植物根茎の繁茂は著しく、機材貫入への障害となった。



(調査作業場所)



(貫入機材：検土杖)



(湧水状況)

## 塩性植物の保全・育成のための基盤整備（案）

- ①石護岸の無い範囲を対象として、満水位で水没する地盤高を目標に表土を漕き取る。
- ※石護岸内では、水面に対して窪地になることで雨水の滞水等が考えられ、微細な環境変化を避けた石護岸以外の範囲の選定が望ましい。
- ②基盤面を耕耘（または客土入替）し、既存の繁茂した根茎の除去を行う。



## 塩性植物育成基盤整備（イメージ断面図）

